

エクステンションセンター公開講座 2300人が申し込み 生田、神田キャンパスで開講



エクステンションセンターの公開講座が延べ2300人の申込者を集め、神田、生田両キャンパスで始まった。

◇神田では、統一テーマを「21世紀型ビジネスモデルへの挑戦」(全6回)と題し、実務家や経営者を講師に招き、その経験やビジネス上の仮説に対し、教員が理論的側面から意見を述べるという他の講座では例をみないコラボレーション形式の展開。第1回は、統一テーマについて商学部の大林守教授による講演が行われ、活発な意見が寄せられた。

受講した経営コンサルティングをしている30代の男性は「分かりやすい内容で良い勉強になった」と話していた。

◇生田では「資史料で読み解く相模・武蔵の歴史」(全8回)を統一テーマとして開講している。受講者と教員が一片の土器、一通の古文書、一点の木簡など同じ史料を読みながら古代から現代にいたる相模・武蔵の歴史をひもといていく。

第1回は10月26日、矢野建一文学部教授が「古代の東海道とナタギリ遺跡」続いて荒木敏夫文学部長が「木簡に見る古代の相模」をテーマに講演を行った。

調布市在住の60代の男性は「歴史が好きなので出席しました。興味深い内容に満足です」と話した。(写真・講演する矢野教授)

[11月15日/ニュース専修2面]

学部発信－経営学部－ 進取の精神、今も脈々と…

経営学部は、創設当時、経営学部を持つ大学が国立では神戸大学、私立でも明治大学だけという創設41年になる歴史と伝統のある学部です。そして常に時代の先駆けとなるカリキュラムを用意してきました。日本で最初に経営学教育に本格的にコンピュータを導入したのも本学部です。その進取の精神は現在まで脈々と受け継がれています。

現在の経営学部の特徴ある講義は、「情報リテラシ」「プレゼミナール」「企業研修」「企業による提供講座」などです。

情報スキル修得を

☆「情報リテラシ」(1年次配当)では、情報の収集、情報の加工、情報の発信など大学で勉学する上で必要な情報スキルを身につけてもらいます。また、「プレゼミナール」(1年次配当)では、問題意識の持ち方、本の読み方、レポートの書き方、意見のまとめ方、議論の仕方、発表の仕方など、3、4年次における「ゼミナール」で必要な学習スキルを少人数の授業において学びます。この2つの授業により、大学で学ぶために必要なスキルが身につけられます。

企業業務を実体験

☆「企業研修」(2、3年次配当)では、学生を一定期間企業に派遣して、購買、製造、販売、営業、企画、広報、管理などの経営の主要部門において研修してもらい、企業のトータルな業務の把握と企業経営のダイナミクスを体験してもらいます。これにより、経営学を学習する上での積極的な動機付けがなされることを期待しています。

経営トップが解説

☆「企業による提供講座」は、本学における初の試みであり、本年度から正規の授業として開講しました。提供企業は、野村證券株式会社(「経済学特殊講義」)、株式会社パナソニック(「経営学特殊講義」)、新日本監査法人(「会計学特殊講義」)の3社です。

これらの講義は、企業の現場で働いている経営トップを含む第一線の方々から、直にその業界の現状と将来についてお話いただき、大学教員による講義では得られない企業の生の現場の姿を学生に解説してもらった講義です。これにより、早くから将来の自分の職業や働き方などをイメージしてもらい、学生の仕事選びや人生設計を支援するという趣旨で行っています。

来年度は、これをさらに拡充し、日本フードサービス協会(「マーケティング特殊講義」)や日本ユニシス株式会社(「情報管理特殊講義」)を新たにラインナップに加え、経営・経済・会計・マーケティング・情報の各分野でひとつずつ開講する予定です。2年次以上の学生が受講できる予定ですので、大いに活用していただければと思います。

このように経営学部では、理論と実学の融合を常に考え、他大学の先駆けとなるカリキュラムの提供を常に心がけております。魚田勝臣新経営学部長のもと、さらに清新で斬新なカリキュラムの改訂に取り組んでいく所存でありますので、どうぞよろしくお願いたします。(大曾根 匡)

[11月15日/ニュース専修2面]